

### 3. 繰り返しと明確化

生徒： すみません。勉強しなくてはいけないとわかっているんですが、時々、もう、完全に参っちゃって、もう、このままじゃ気が狂っちゃうんじゃないかって思って、勉強もなにも手がつかなくなって……………  
どうしていいか、自分でもわからないんです……………。

先生： そう、こんな状態のまんまでいったら、この先どうなるかって、心配なんだね。

生徒： ええ、成績も落ちこんでいくでしょ。ひとり、取り残されるみたいで…………… 家の人も、勉強しろとか、勉強しているかとか、口を開けば、勉強のことばかりで…………… その…………… 勉強が手につかなくて、こっちはあせってるっていうのに…………… 本当に参っちゃうんです。

先生： ひとり取り残されるみたいで、あせっちゃうんだね。

生徒： ええ、学校へくれば、みんな、勉強何時間やったとか言ってるし、もう、どこかへ逃げだしたいくらいなんです。もう……………。

先生： そう、もう、どこかへ逃げだしたいくらいなんだね。

生徒： ええ、まあ、現実にはそうもいかないでしょ。だから、よけいみじめになってるってわけなんです。

先生： 逃げだすわけにもいかないし……………。

生徒： 1学期に少し下がったから、今度はがんばらなくちゃって思ったんだけど…………… この間の中間試験の前に、かぜをひいちゃって……………。

先生： 今度はがんばろうって思ったのに、実力を出しきれずにくやんでるんだ。

生徒： ええ……………。

生徒の話を繰り返したり、要約したり、確認したり、あいまいな点をもっと明確にしたりして、話を戻してやると、生徒は、「ええ」、「そう」というように反応し、自分の状況や心境をみつめながら話をするようになる。

こうして、いつも、相手の気持ちにピントを合わせ、こちらがわかったということを伝えていくようにしたい。そうすることによって、相手は、自分のこ